

2020年度大学入試センター試験 解説〈地理B〉

第1問 世界の自然環境と自然災害

問1 正解は①

高地4地点の標高や地形に関する説明文の正誤判定。決めやすい選択肢から判定して、消去法を利用したい。

Cは①。カナダ北東部のラブラドル高原。北アメリカ大陸の北部一帯は、氷期に大陸氷河（ローレンタイド氷床）に覆われていたため、氷河湖などの氷食地形が数多く見られる。④と迷うが、長期の侵食を受けた安定陸塊（カナダ楕状地）の標高は低い。

Aは②。サハラ砂漠のアハガル高原（アルジェリア）。ワジとは、砂漠の一時的な降雨で生ずる^か涸れ川、オアシスとは湧き水のある場所を表す。

Bは④。中国西部のチベット高原。標高の影響で寒冷となり、ツンドラ（ET）気候区に区分される。近年の気温上昇で凍土面積は縮小しているという。

Dは③。ベネズエラからブラジルにかけて広がるギアナ高地。ところどころに垂直な崖で囲まれたテーブル状の山（テーブルマウンテン）がそびえる。

問2 正解は③

4地点の気候を示すハイサーグラフの判別。北・南半球の違いも利用する。

ウは③。シトカ（アメリカ合衆国アラスカ州）。高緯度だが大陸西岸に位置し、暖流（アラスカ海流）の上を吹く偏西風の影響で、年中湿潤、冬でも温かな西岸海洋性気候（Cfb）となる。北半球であるため、1月が最暖月となっている①は該当しない。

アは②。リヴィングストン（ザンビア南部）。アフリカ南部の内陸は、冬季（7月頃）の乾燥が厳しいステップ気候区（BS）である。ここよりやや低緯度側には温暖冬季少雨気候区（Cw）が分布する。

イは④。トボリスク（ロシア）。シベリアの大半は、冬季の寒さが厳しく、気温の年較差が大きい亜寒帯湿潤気候区（Df）である。

エは①。ブエノスアイレス（アルゼンチン）。アルゼンチン北部からウルグアイにかけて広がる温暖湿潤気候区（Cfa）は、ヨーロッパからの白人入植者を惹きつけた。

問3 正解は②

地震の震源と火山が分布する地域の判別。大地形の分布を想起したい。

カはイタリアやバルカン半島を含み、新期造山帯であるアルプス＝ヒマラヤ造山帯の一部である。地震が多発し、イタリアのヴェスヴィオ山やエトナ山など有名な火山も多い。

クはアメリカ合衆国アラスカ州のアラスカ半島からアリューシャン列島にかけて、新期造山帯である環太平洋造山帯の一部である。太平洋プレートが北アメリカプレートの下に沈み込む狭まる境界にあたる。日本列島と同様に島弧と海溝が並行し、地殻変動が活発である。

キは中国のスーチョワン（四川）盆地付近を含み、安定陸塊や古期造山帯が分布するが、アルプス＝ヒマラヤ造山帯との境界でもある。断層運動が活発で地震の発生はあるが（2008年の四川大地震など）、火山活動はみられない。

ケはブラジル高原である。安定陸塊の楕状地にあたり、地震や火山活動はみられない。

問4 正解は④

気圧帯の模式図に関する説明文の正誤判定。誤文がはっきりしているため、きわめて易しい。

④は適当でない。図の右側（7月）のセの緯度帯に低圧帯がかかっていることから誤りは明らかである。南半球に当たるセの緯度帯では、夏季の1月ごろは亜熱帯高压帯の影響で乾燥するが、冬季の7月ごろは亜寒帯低圧帯の影響で前線が生じるなどして湿潤となる。

①は適当。回帰線付近は、1年を通じて亜熱帯高压帯に支配され、乾燥する。

②は適当。赤道付近は、1年を通じて熱帯収束帯にあたり、多雨となる。

③は適当。赤道からやや離れた地域で、夏季1月ごろの雨季と、冬季7月ごろの乾季に分かれるサバナ気候などが分布する。

問5 正解は②

経線上の樹高に関するグラフの判別。2016年の本試験第1問にも同様の資料を使った類題（アフリカ大陸4地点の緯線上のグラフを判別する）があるが、日常の学習では見慣れない題材であり、内容的にも迷いやすい。

Qは②。シベリアのタイガと呼ばれる針葉樹林帯であり、広大な範囲に一定の樹高を持つ森林が分布している。

Pは④。南端●は赤道付近にあり、高い樹冠を持つ熱帯林が発達するが、北○に向うと灌木（低木）の多いサバナ、樹木のないステップ、砂漠と続く。

Rは③。オーストラリア大陸の内陸部はほとんどが乾燥帯で植生に乏しいが、赤道に

近い北端○付近はサバナが分布する。

Sは①。北端○はセルバと呼ばれる熱帯林である。南側は大陸の幅が狭いため一定の降雨があり、有刺灌木林のサバナ植生グランチャコが分布する。

問6 正解は⑥

災害発生頻度に関する統計地図の判別。与えられた統計地図はやや区別しづらいもので、最近話題になったアマゾン熱帯雨林の火災も反映されておらず、手間取った受験生も多いだろう。

地震はツ。環太平洋造山帯、特にメキシコやエクアドル、ペルーは地震の多発地帯となっている。2010年にカリブ海地域で発生したハイチ大地震もチェックポイントとなる。

森林火災はチ。森林国であるカナダでの発生件数が比較的多いこと、大規模な森林のない中部アメリカの島嶼国で発生していないことが決め手となる。

熱帯低気圧はタ。大西洋やカリブ海などで発生し、北アメリカ大陸を襲うハリケーンの被害がカリブ海・メキシコ湾周辺諸国に集中し、南アメリカでは北端以外ほとんど発生していない。

第2問 資源と産業

問1 正解は②

マンガン鉱の輸入量を示すグラフの判別。この資源の貿易データを覚えている受験生はわずかだろうが、問題文中に「鉄鋼の生産…で用いられてきた」とヒントがあるので、国ごとの鉄鋼業の消長から考えたい。ちなみにマンガン鉱の主要輸出国は南アフリカ共和国、オーストラリア、中国などである。

韓国は②。韓国では1973年ごろから重工業化が始まり、鉄鋼業では日本の援助を受けて南東部のポハン（浦項）に大製鉄所が建設されたことを契機に急成長を果たした。粗鋼生産量では日本に迫る世界第5位（2018年）である。

インドは①。世界の粗鋼生産の約半分を占めるに至った中国の陰に隠れているが、同じBRICSの一員であるインドは、粗鋼生産量で2015年にはアメリカ合衆国を、18年には日本を抜いて現在世界第2位となっている。

スペインは④。以前からビルバオの鉄鉱石を利用した鉄鋼業が発達していたが、他のヨーロッパ諸国同様に資源の枯渇や産業構造の変化によって粗鋼生産は停滞しており、インドの7分の1以下である。

日本は③。1960年代の高度経済成長期に重工業化を進めた日本では、銑鋼一貫製鉄所を次々と建設して低コストを武器に鉄鋼生産量を伸ばし、1980年代には旧ソ連に次ぐ世

界第 2 位の粗鋼生産量を示していた。その後も、技術力を背景にした品質の高さもあって生産上位国であるが、2000 年代における中国の急成長を受けて、日本の生産量は年 1 億トン前後で停滞している。

問 2 正解は④

水産業と水産資源に関する説明文の正誤判定。

④は適当でない。世界各国が 200 海里の排他的経済水域を設定したことで衰退したのは、日本の経済水域内で操業する沖合漁業ではなく、その外で操業する遠洋漁業である。

①は適当。この時期には遠洋漁業だけでなく、沖合漁業の漁獲高もマイワシの不漁で急減し、これを輸入で補った。

②は適当。この期間に漁業生産量は 9400 万トン前後で停滞しているが、養殖業生産量は 4200 万トン程度から 1 億トン超にまで伸びている。主に中国・インドネシア・インドなどのアジア諸国における伸びが著しい。

③は適当。大陸棚では、河川から流入する栄養分も多く、日光が海底まで射し込むため植物プランクトンが発生しやすく、また、海藻や岩場など魚の住処も多いため良い漁場となる。

問 3 正解は④

シンガポール・トルコ 2 カ国の輸出品目の統計における品目の判別。国の特徴を理解していれば容易に推定できる。

衣類はイ。ヨーロッパに近く低賃金労働力を抱えるトルコでは、繊維などの労働集約的な軽工業が発達しており、衣類が輸出品の上位となる。

果実類はウ。都市国家であるシンガポールでは農業生産がほぼ皆無であるため、輸出品上位に果実類が入ることはあり得ない。

電気機械はア。シンガポールでは、中継貿易港における加工貿易から始まって先進国並みの工業化を成し遂げており、電気機械の輸出が盛んである。

問 4 正解は⑥

米の生産・貿易に関する統計地図の判別。標準的であり、落とせない一題であろう。

生産量はク。米はモンスーンアジアにおける自給的作物であるため、東～南アジアの人口大国で生産が多い。よって中国・インド・インドネシアなどが上位生産国となる。

輸出量はキ。多くは生産上位国と重なるが、国内需要の大きい中国・インドネシアなどでは輸出余力がなく、タイやベトナムなどが上位輸出国となる。アメリカ合衆国ではカリフォルニアやミシシッピ川下流域で輸出向けに生産している。

輸入量はカ。生産が消費に追いつかない中国・インドネシア、乾燥のため穀物生産に乏しい西アジアの産油国、商品作物の生産を優先し食料を輸入に依存するアフリカ諸国などが上位輸入国である。

問5 11 正解は④

風力発電が盛んな国名の選択。単純な形式の設問であり、時間をかけずに処理したい。

④のポルトガルは、化石燃料資源に乏しく、輸入資源による火力発電が中心であったが、そのための貿易赤字に悩まされてきた。近年では、大西洋に面し、年中湿った偏西風が一定の方位から吹き付ける環境を利用し、風力発電や水力発電など再生可能エネルギーの割合を高め、脱化石燃料を進めている。2016年には水力28.1%、風力20.7%、バイオ5.6%、太陽光1.4%と、再生可能エネルギーで5割を超えている。

①のイランは産油国であり、9割以上が火力発電で賄われている。なお、現在問題となっている核開発と関連して、原子力発電も利用している。

②のカナダは、広大な国土を利用して水力発電の割合が高い(58%)。

③の台湾は、日本と同様に季節風の影響が強く、風力利用には課題があり、輸入燃料による火力発電中心である(82%)。

問6 12 正解は③

4カ国の経済・第三次産業に関する統計の判別。人口1人当たりGNIは頻出なので、日本や主要国の数値を頭に入れておいてもよいだろう。

日本は③。選択肢中ではスイスと並ぶ先進国であり、人口1人当たり研究開発費や金融・保険業従業者割合などは高位だが、1人当たりの所得水準はスイスの半分以下に過ぎない。近年、日本経済の弱体化が懸念されている。

アラブ首長国連邦は②。産油国であるため人口1人当たりGNIは先進国並みだが、人口1人当たり研究開発費は低位である。主要都市ドバイでは金融センター化を進めているが、国全体では金融・保険業従業者の割合は高くない。

スイスは①。チューリヒなどに金融・保険業が集積しており、その従業者割合が高い。金融・サービス部門に特化したスイスの経済水準は極めて高く、人口1人当たりGNIは先進国の中でもトップクラスである。

ハンガリーは④。東欧の旧社会主義国であり、EUの中でも経済水準は低い。安価な労働力を求める西欧の製造業企業の進出を受け入れる一方であり、自国資本による産業のための研究開発には資金が回らない。

第3問 都市と村落

問1 13 正解は②

大都市の分布に関する統計の判別。数値の大きさだけでなく、時期ごとの推移にも注目したい。

ウは②。中国南部、インド、メキシコといった、人口の絶対数が大きい上に近年の成長が著しい地域を含んでおり、都市数が多い①、②のうち、1995～2015年の増加率の高い②に絞る。

アは③。ヨーロッパ主要部以外は人口が希薄な緯度帯である。ヨーロッパでは産業革命期に人口爆発が起こって都市が成長したが、現代では人口が停滞しており、大都市の数も以前とあまり変わらない。

イは①。ヨーロッパ南部、中国北部～中部、韓国、日本、アメリカ合衆国などの、工業化が著しく進んだ人口稠密地域を多く含んでおり、絶対的な大都市数が多い。

エは④。他に比べて陸地面積が小さい緯度帯で、以前は大都市も少なかったが、近年はギニア湾岸のナイジェリアなど、東南アジア諸国、コロンビアなどで大都市が急増している。

問2 14 正解は②

首位都市と2位都市の差が小さい国名の選択。頻出の知識事項であり、センター試験としては出題に工夫が感じられない。

②のオーストラリアにはシドニー（人口約453万人）、メルボルン（同435万人）の2大都市があり、その差は小さい。なお、首都キャンベラは2大都市の中間に計画的に建設された政治都市であり、人口は2大都市の10分の1程度にすぎない。

①のエチオピアの最大都市は首都のアディスアベバで、その人口310万人は2位以下の都市（20万人規模）と隔絶している。開発投資が中心都市に集中する発展途上国ではこのような首位都市（プライメートシティ）が形成されやすい。

③の韓国では、総人口5100万人の約2割、ほぼ1000万人が首都ソウルに一極集中している。第2都市は南東端の港湾都市プサン（350万人）である。

④のチェコの最大都市は首都のプラハで、国内唯一の百万都市となっている。

問3 15 正解は③

都市問題とその対策に関する説明文の正誤判定。各文章の背景となっている制度や現象の理解が決め手となる。

③は適当でない。先進国の大都市では、かつて都心部やその周辺が荒廃するインナーシティ問題が生じたが、近年の再開発によって高級住宅街化し、再び高所得者層が流入

する現象＝ジェントリフィケーションがみられる。

①は適当。スラムは発展途上国の大都市に共通する課題であり、失業者、インフォーマルセクターの労働者、ストリートチルドレンの存在や、都市インフラの整備の遅れなどと結びつく。

②は適当。通勤者が郊外駅などに駐車して、鉄道などの公共交通機関で中心市街地に向かうパークアンドライドの仕組みを説明している。

④は適当。近年は微小な粒子状物質である PM2.5 の飛散が問題となっている。

問4 16 正解は①

ホンコンで働く外国人の統計における国名の判別。やや難しいが、労働者数の変化も手掛かりにしたい。

フィリピンは①。フィリピンは多産少死型の人口動態を示しており、急増する人口に就業機会が追いついていないため、海外での出稼ぎ労働者が多く、今も増加している。また、その送金が重要な外貨獲得源にもなっている。出稼ぎ先は中東の産油国や、シンガポール・ホンコンなどが多い。ホンコンへの出稼ぎ者はほとんどが女性で、大半がメイド（家事労働）として雇用される。そのため絶対数は多いが、管理職・専門職の割合は低い。

イギリスは②。かつての宗主国として 1997 年の返還以前には多くの管理職・専門職従事者が経済活動を行っていたが、近年は総数が減少している。

日本は③。ホンコンがアジア NIEs の一角として成長した 1980 年代以降に多くの日本企業が進出した。卸売業やサービス・金融業などの割合が高い。

タイは④。フィリピンに比べると絶対数は少ないが、やはり女性の家庭内労働が中心であり、管理職・専門職はわずかである。

問5 17 正解は④

日本国内の人口移動に関する統計における県名の判別。統計の読み取りがやや煩雑だが、転出入の傾向とは関係なく人口規模だけでも判断できてしまう。

鳥取県はケ。地理的な位置関係により、東京都よりも大阪府への転出が多い中国地方の 2 県はキとケに絞られる。鳥取県は 56 万人と人口最小の県であり、転出入の絶対数の小さいケに該当する。岡山県は大規模な臨海工業地域を有し、政令指定都市の岡山市があることなどから、大阪府からの転入も多いキに該当する。

宮城県はカ。大阪府よりも東京都への転出が多いカとクが東北の 2 県と考える。政令指定都市であり、東北地方の中核都市の機能を担う仙台市は、周辺から人口を引き寄せており、カ→クの移動（1683 人）よりもク→カの移動（2482 人）の方が大きいことから、カを宮城県、クを秋田県と判断する。県人口も宮城県の方が 2 倍以上大きい。

問6 18 正解は①

都市（栃木県宇都宮市）内部の機能分化に関する統計地図の判別。指標の意義を理解した上で、地図の特徴を読み取るのだが、特にシとスの判別に手間取るだろう。

居住期間が5年未満の人口割合はサ。利便性がよく地価が高い都心部には、若年労働者世帯や学生向けの賃貸住宅が多く、短期居住者が中心となる。

核家族世帯割合はシ。親子のみで構成される核家族の住宅は、道路網による都心へのアクセスの利便性と住環境や経済性を兼ね備えた都心周辺部に分布する。

第1次産業就業者世帯割合はス。農業地域は都心から離れた郊外に広がる。

第4問 東南アジアとオセアニア

問1 19 正解は③

4地点のうち最も深い場所を含む海域の選択。すなわち海溝の位置を考える。

水深の最も深い場所はウ。フィリピン海プレートの下に太平洋プレートが沈み込む狭まる境界にあたり、島弧（マリアナ諸島）と海溝（マリアナ海溝）が並行する。この海溝内のチャレンジャー海淵は世界最深地点（-10920m）である。

アは南シナ海、イはティモール海の大陸棚にあたり、水深200m程度である。

エは太平洋中央部の大洋底にあたり、水深は3000～4000m程度である。

問2 20 正解は④

4地点の気候を示す雨温図の判別。4地点はいずれもなじみの薄い都市だが、気候の特徴が明瞭であり、容易に判断できる。

Dは④。ニュージーランド北端に近いカイトアイア。ニュージーランドは年中偏西風の影響を受け、湿潤で気温の年較差が小さい西岸海洋性気候区（Cfb）に属する。温帯なので、最寒月の気温が18℃を上回る②や③は該当しない。南半球に位置するので7月ごろが冬季である。

Aは③。タイ中央部のナコンラチャシマ。赤道からやや離れた雨季と乾季の明瞭なサバナ気候区（Aw）にあたる。

Bは①。オーストラリア西部内陸のペインズファインド。降水量が少ない乾燥帯のステップ気候区（BS）にあたる（沿岸の都市パースの地中海性気候区＝温帯冬雨のグラフにも似るが、降水量が乾燥限界未満である）。

Cは②。ミクロネシア連邦のチューク（トラック）諸島。赤道に近く、年中高温多雨となる熱帯雨林気候区（Af）にあたる。

問3 21 正解は①

農作物の産地分布を示す統計地図の判別。コプラ油がややマイナーな作物であること、キとクの差異がそれほどはっきりしないことなどから判定しづらい。

コプラ油はカ。熱帯性の最もポピュラーなやし科の植物ココヤシは世界中の熱帯地域で見られるが、コプラ油の商業的生産ではフィリピンが世界一である。

さとうきびはキ。乾季のある熱帯・亜熱帯の代表的なプランテーション作物だが、オーストラリアの北東部でも栽培されていることが判別の決め手となる。主要生産国はブラジル・インド・中国（2017年）。

茶はク。一年を通じて高温多雨で水はけの良い丘陵地が栽培に適する。主要生産国は原産地の中国のほか、イギリス人が栽培を持ち込んだインド・ケニア・スリランカなどであるが、東南アジアでもベトナムなどで栽培される。

問4 22 正解は③

4種類の鋳産資源の産出量に関する地域別統計の判別。③ or ④には絞れるだろうが、そこからがやや難しい。

ボーキサイトは③。アルミニウムの原料であるボーキサイトは、乾季のある熱帯の赤土ラトソルに含まれるアルミニウム分が凝縮（ラテライト化）したものである。オーストラリア北部のサバナ気候区にはウェイパやゴヴなどの世界的な産地が分布するが、インドネシアやマレーシアでも若干の産出がある（ただしマレーシアでは2016年以降の採掘を停止している）。

すずは①。最大の産出国は中国だが、第2位は東南アジア大陸部のミャンマーで、近年中国などの外国企業による開発が急速に進んでいる。また、島嶼部ではインドネシアのバンカ島・ブリトン島などにも代表的なすず鋳山がある。

ニッケルは②。レアメタルの一種であるニッケルは、東南アジア島嶼部のフィリピンが最大の産出国となっている。他にもオセアニアにおいてオーストラリアのほか、フランス領ニューカレドニアも有名な産地である。

鉄鋳石は④。鉄鋳石はおもに安定陸塊に分布し、ピルバラ地区を有するオーストラリアが世界産出量の三分の一を占める最大の産出国となっている。これ以外のオセアニアや東南アジアには目立った産出国は存在しない。

問5 23 正解は①

4 カ国間の輸出額を示す流線図における国名の判別。本問の対象地域外からエントリーした中国の判定が決め手となる。

オーストラリアはサ。後述のように、シが中国と分かれば、中国に対して鉄鉱石や石炭、最近では LNG（液化天然ガス）など大量の資源を輸出して大幅な輸出超過となっているサがオーストラリアである。

タイはス。東南アジアの中では工業化が進み、オーストラリアやラオスにも工業製品を輸出しているが、中国との関係では輸入超過となっている。

中国はシ。「世界の工場」とよばれる工業国であり、21 世紀以降には国際貿易額も急増、世界一の輸出国、世界第二の輸入国である。この 4 カ国間での貿易額が最も大きいシに該当するのは明らか。

ラオスはセ。インドシナ半島内陸の農業国であり、工業化の遅れた最貧国の一つである。したがって貿易額自体がきわめて小さい。

問6 24 正解は①

生活文化と民族・宗教に関する説明文の正誤判定。やや細かい知識を含むが、頻出事項であり知っておいてほしい。

①は適当でない。インドネシア全体ではムスリムが多数派であるが、バリ島には古くに伝わったヒンドゥー教が根付いており、その信者が多数派を形成している。インドから遠い地で独自に発展した宗教的慣習がみられ、一部の舞踏などは観光資源ともなっている。なお、近年ではジャワ島などから観光業などに従事するムスリムの移住が増えており、社会不安の要素となっている。

②は適当。白豪主義とは、オーストラリアにおけるヨーロッパ系白人優位の国づくりとそのために取られた政策のことである。

③は適当。英語のほか、多様な民族を反映して中国語・マレー語・タミル語（インド南東部の言語）も公用語となっているが、この国の経済を支える貿易・サービス・国際金融などで用いられる英語が最重要の地位を占めている。

④は適当。フランス人が導入したコーヒー豆の栽培は、今では世界第 2 位の生産量を誇るにまでなった。

第5問 中国とブラジル

問1 25 正解は②

2 河川の統計グラフの判別組み合わせ。アマゾン川の特徴がわかりやすいので、消去法が使える。

河川の勾配について

アマゾン川はイ。きわめて勾配が緩やかで、中流のマナオス（河口から 1500km）まで大型の外洋船が、小型なら上流のイキトス（同 3700km）まで遡行可能であることが知られている。

長江はア。上流はチベット高原にあたる。河口から 1800km 地点に三峡（サンシヤ）ダムが建設されたが、この付近から四川（スーチョワン）盆地にかけて勾配が急に大きくなる。

月平均流量について

アマゾン川は A。世界一流域面積が広いうえ、その大半が熱帯雨林気候区（A f）や熱帯モンスーン気候区（A m）に属し、年間を通して多雨であり、流量の大きさに反映される。

長江は B。上流には高山のツンドラ気候区（E T）、中流には温暖冬季少雨気候区（C w）などが分布し、特に冬季は流量が少ない。

問2 26 正解は③

2 カ国の農産物の生産統計の判別。カとキの判別は迷いやすく、やや難しい設問であった。

牛乳はキ。乳牛は夏でも涼しい気候（中国の北部、ブラジルの南部）を好み（必須ではない）、年中牧草が生育する程度に湿潤であればよい。よって、米や小麦などの主要作物の栽培に適さない地域（ヨーロッパの北海沿岸、北海道の東部など）で生産されやすい。また、製品が傷みやすい酪農の立地は、大都市近郊が有利となる。中国ではペキン・テンチン周辺や、広大な草地を持つ内モンゴル自治区、東北地方の北部、ブラジルでは大都市の分布するサンパウロ州などで生産が多い。

小麦はカ。主に年降水量 500 ～ 750mm 程度の半乾燥の温帯・冷帯で栽培されるため、ブラジルでは栽培が可能な地域が最南部（ウルグアイ・アルゼンチンのパンパに隣接）に限定される。小麦の自給率は 5 割程度で、アルゼンチンなどからの輸入に依存している。中国では、年約 800 ～ 1000mm の等降水量線（チンリン山脈とハワイ川を結ぶ線）の北側が小麦地帯となっている。

バナナはク。熱帯性の果実であり、中国では最南部のみで生産が可能である。生食ではなく調理して食べることが一般的なブラジルでは、広い地域で自給的に生産されてい

る。中国は世界第 2 位、ブラジルは第 4 位のバナナ生産国である（第 1 位はインド）。

問 3 27 正解は③

4 カ国の製造業生産額グラフの品目判別。これも迷いやすい設問である。消去法で処理したい。

食料品・飲料はス。農業大国であり、砂糖や植物性油かすなどが主要な輸出品目となっているブラジルで割合が高いが、直接判断するのは難しい。

機械類はサ。工業化の進む中国で割合が高いことから判断できる。

石油製品はシ。燃料資源に経済が依存するロシアで割合が高い。

繊維品はセ。労働集約的な軽工業が発達し、原料となる綿花の生産も多いインドや中国で割合が高いことから判別しやすい。このように、食料品・飲料以外の品目から決めていけばよい。

問 4 28 正解は②

4 カ国の貨物輸送に関する統計の判別。経済活動の規模の違いが前提となる。

中国は②。アメリカ合衆国と中国は、4 カ国の中で国土面積が並んで大きく、経済活動がきわめて盛んである。よって、いずれも輸送量の絶対値が大きくなるが、中国における航空機による貨物輸送はアメリカ合衆国ほどは発達していないため、②に該当する。よって、アメリカ合衆国は①である。国内航空網が高度に発達しているうえ、産業構造の高度化によって付加価値の高い小型軽量の製品が多いため、貨物輸送における航空機利用が普及している。

インドは③、ブラジルは④である。インドでは、旧宗主国イギリスによって植民地支配のための鉄道網が 19 世紀から形成されており、旅客・貨物ともに鉄道利用が盛んである。ブラジルは陸上の開発が困難なアマゾン盆地の密林地帯を抱えており、鉄道利用は限定的であるが、カラジャスの鉄鉱石を港湾に輸送するカラジャス鉄道などの例は存在する。

問 5 29 正解は②

2 カ国と日本出身者の居住者数を示すグラフの判別組み合わせ。中国やブラジルと日本との関係を考察する上でよく工夫された良問である。

中国・ブラジル国籍を持つ居住者数について

タはブラジル。バブル経済の末期に日本の出入国管理法が改正され、日系人に限って単純労働での受け入れが行われたため、1990 年代から多くの日系ブラジル人が中部や北関東の工業地域に居住するようになった。しかし、バブル崩壊後の長期の不景気や、2008 年のリーマンショックなどを契機に雇い止めにあった日系人などの帰国が増えてい

る。

チは中国。今世紀に入って、留学生や技能実習生などの資格で来日する中国人が増加している。事実上は単純労働力の受け入れである。

日本出身の居住者数について

Xは中国。日本企業の中国進出に伴って、中国に居住する日本人は年々増加している。

Yはブラジル。明治時代の終わりごろ、神戸港を出発した笠戸丸がサンパウロの外港サントスに到着して以来、昭和の中ごろまで多くの日本人がブラジルの農園労働力などとして移住した。彼らはサンパウロを中心に日系人社会を築き、今ではブラジル社会の一員として定着している。しかし、日本から移住した「一世」人口は徐々に減って、今やブラジルで生まれ育った「二世・三世」の時代に移行している。

第6問 地域調査（山梨県甲府盆地周辺）

問1 正解は⑤

3地点の気候に関する資料の判別組み合わせ。頻出の内容・形式である。

御前崎はウ。比熱が大きい（熱しにくく冷めにくい）海洋に面しており、気温の日較差は小さい。

甲府はア。御前崎とは逆に内陸性の気候であり、気温の日較差は大きくなる。周りを山地で囲まれた盆地では、湿った季節風が遮られて降水量は特に少ない。

東京はイ。冬の北西季節風が脊梁山脈にぶつかって日本海側に雪を降らせるため、からっ風の吹きおろす関東地方は乾燥する。

問2 正解は②

鳥瞰図における方位選択。特別な知識は不要で、きわめて易しい。なお図3のような図をブロックダイアグラムという。

鳥瞰図の向きは②から見たものである。手前側に平地が広がり、奥側に山地が左右に伸びている。

問3 正解は②

地形図中の土地利用に関する説明文の正誤判定。4つとも決めた方が楽に判断できる。

Dは②。図は西高東低となっているが、徳島堰から水を引くためには、堰よりも低い位置でなければならず、A～Dの中で堰の東側（堰よりも低い地点）にあたるのはDしかない。

Aは③。Aの集落と御勅使川の間で等高線が密集した急崖があり、高台にあるAの集

落は氾濫の被害を受けることはない。

Bは①。Bの南と北に「1916年の地形図に描かれた石積みの堤防」が河川と並行していることから、この地点が堤防の内側＝河道にあったことが読み取れる。

Cは④。南北に通る幅の広い道路が「等高線に沿うように延びる主要道路」である。この道路に面して小中学校の記号がみえる。

問4 33 正解は①

養蚕業に関する資料についての会話文の適語補充。常識で判断可能であり、失点を防ぎたい。

サは通気性。写真から、屋根の中央部が突き上げるように高くなっているところに窓が設えられているのがわかる。窓は採光や通気のためにある。防音が必要なら窓はない方がいい。

シは遅くまで行われていた。グラフから神金地域の養蚕戸数が減っているにもかかわらず、塩山地区の養蚕戸数に占める割合が高いままであることがわかる。つまり、塩山地区では神金以外の地域で神金よりも早く養蚕戸数が減ってしまったことを示している。よって神金地域では、他の地域に比べて遅くまで養蚕業が残存していたことになる。

問5 34 正解は③

小売店の分布を示す統計地図に関する説明文の正誤判定。落ち着いて肢文を読めば分かることである。

③は適当。2017年の図でバイパスの南には3地点に■が読み取れるが、いずれも1991年の図では農地となっている。

①は適当でない。1km圏内には3つ、圏外には1つ（駅の南東）の■が読み取れる。

②は適当でない。1991年の圏内には9つ、2017年の圏内には5つの○が読み取れる。

④は適当でない。3つの大型小売店舗■はいずれも最寄り駅から1km程度かそれ以上離れている。

問6 35 正解は①

人口統計に関する説明文の正誤判定。用語の意味を理解していれば易しい。

①は適当でない。人口増加率は、社会増加率（転出入による増減）と自然増加率（出生・死亡による増減）の和である。この期間の社会増加率は平均して+0.5%程度、自然増加率は-1.0%程度だから、人口増加率は-0.5%程度となる。

②は適当。社会増加率がプラスになるのは転入数>転出数の場合である。

③は適当。高齢者とは65歳以上の人である。大都市圏では、老人ホームのような高齢

者施設が不足しており、これを求めている転入が多いものと思われる。

④は適当。中学生以下の子どもの親は 30～50 歳程度であるから、30～64 歳の階級と 5～14 歳の階級で他を上回る山梨県内からの転入者において、そのような世帯単位の転入が多いと推測できる。